



花曇り
hanagumori
桜が咲く頃、空が薄曇りである様子。



稲見神社



将棋頭



市指定
能蔵池のエドヒガン



市指定
曲輪田諏訪神社の
エドヒガン



桜雨
sakuraame
桜が咲く頃に降る雨

抄了寺



零れ桜
koborezakura
咲き満ちてこぼれ落ちる桜の花。またはその様子。

稲見神社



花風
hanakaze
桜の花の盛りに吹く風。

花筏
hanaikada
はたるみ橋
散った花びらが水面に浮かんで吹き寄せられていく様子。



桜 咲く

市指定
上市之瀬のイトザクラ

新しい年度を迎えました。年度の変わり目にその美しい姿を見せる桜の花は、人生の節目を彩る、人々の記憶に残る花といえ、日本人の心をこらえてやみません。寒い冬を越え、繊細な花を咲かせたかと思つとすぐに散つてしまつ姿に、昔から美しさやはかなさを感じてきたようです。

南アルプス市内にも多くの桜の木があります。中でも市の天然記念物に指定されているものに「上市之瀬のイトザクラ」、「曲輪田諏訪神社のエドヒガン」、「能蔵池のエドヒガン」があります。

桜といふは「マンヨウシ」を思い浮かべます。指定されているのはいずれも「エドヒガン」と、その変種である「イトザクラ」です。イトザクラは、エドヒガンの枝が垂れ下がったもので、別名「シタレザクラ」とも呼ばれます。「エドヒガン」と「オオシマザクラ」を交配したものが「マンヨウシ」といわれますから、エドヒガンの方が古くからある品種であることがわかります。

市内には、指定天然記念物のほかにも寺社や史跡、文化財の周辺などに桜が多く植えられており、歴史ある風景に彩りをそえています。

また、日本文化に根ざしている「桜」ですから、私たちの周りには桜に関する言葉もあふれています。例えば「サクラサク」と言う言葉は受験の合格を知らせる電報として知られています。が、つらい時期を越えて大輪を咲かせる姿になぞらえ、めざましいこの象徴として使われてきたようです。

ほかにも「花曇り」や「花筏」という言葉もあります。この場合の花は桜を指しているといわれ、これらは移ろいゆく桜の姿やその風景の時間を切り取った表現と言えます。青空に映える満開の桜だけでなく、曇り空や散つてもなお桜を愛する日本人の心がうかがえます。

最後に市内各地の桜の写真でもっとそのような言葉の一部を紹介しましょう。普段はあまり使われないかもしれませんが、このような言葉を思い浮かべながら、移り行く桜の風景を楽しんでみるのも良いかもしれませんね。

写真文 文化財課